



# 七色のかがやき

長崎市立虹が丘小学校 学校便りNo.1 6

令和6年12月 2日(月)

編集・発行責任者 校長 池田敏典

E-mail e52nagasaki-city.ed.jp

G-mail nijigaoka@gmail.com

## きつねのおきゃくさま 作・あまんきみこ より

はらぺこきつねが歩いていると、やせた ひよこがやってきました。

がぶりとやろうと思いましたが、やせているので考えました。太らせてから食べよう。

「やあ ひよこ。」

「やあ おにいちゃん。」

「おにいちゃん?やめてくれよ。」

きつねは、ぶると身震いました。

でも ひよこは、目をまるくして言いました。

「ねえ、おにいちゃん。どこかにいい住みかはないかなあ。困ってるんだ。」

きつねは心の中で、にやりと笑いました。

「よしよし、おれの家にきなよ。」

すると ひよこが 言いました。

「きつねおにいちゃんって優しいね。」

「優しい?やめてくれったら、そんなせりふ。」

でも、きつねは生まれて初めて「優しい」なんて言われたので、少しぼうっとなりました。

きつねはひよこに、それはそれは優しく食べさせました。そして、ひよこが「優しいおにいちゃん」と言うと、ぼうっとなりました。

ある日、ひよこが散歩に行きたいと言いました。

逃げる気かな?と思ったきつねは、そうっついていきます。

そこへ、やせたあひるがやってきました。

「やあ、ひよこ。どこかにいい住みかはないかなあ。困ってるんだ。」

「あるわよ。きつねおにいちゃんちよ。あたしといっしょに行きましょ。」

「きつね?とおんでもない。がぶりとやられるよ。」

「ううん。きつねおにいちゃんとはとても親切なの。」

それを かげで聞いたきつねはうっとりしました。

そして、「親切なきつね」という言葉を五回もつぶやきました。

きつねは、ひよことあひるにそれはそれは親切にしました。そして、二人が「親切なおにいちゃん」の話をしているのを聞くと、ぼうっとなりました。

ある日、ひよことあひるが散歩に行きたいと言いました。

逃げる気かな?と思ったきつねは そうっついていきました。

そこへ、やせた うさぎが やってきました。

「やあ、ひよことあひる。どこかにいい住みかはないかなあ。困ってるんだ。」

「あるわよ。きつねにいちゃんちよ。」

「きつねだって?とんでもない。がぶりとやられるぜ。」

「ううん。きつねにいちゃんは、神様みたいなんだよ。」

それを かげで聞いたきつねはうっとりして、気絶しうになりました。

きつねは、ひよことあひるとうさぎを、それぞれ神様みたいに育てました。そして、三人が「神様みたいなおにいちゃん」の話をしていると、ぼうっとなりました。

ある日、くろくも山のおおかみが下りてきました。

「こりゃ、ひよこにあひるにうさぎだな。」「いや、まだいるぞ。きつねが いるぞ。」

きつねのからだに勇気がりんと湧きました。

そして、実に勇ましく戦いました。

おおかみは、とうとう逃げていきました。

その晩、きつねは、恥ずかしそうに笑って死にました。

まるまる太ったひよことあひるとうさぎは、にじのりに小さなお墓をつくりました。

そして、世界一やさしい、親切な、神様みたいな、その上勇敢なきつねのために涙を流しました。

※文体や文字表記を変えながら概要が伝わるように要約しています。

## 人を変える魔法の言葉

きつねは、はじめは食べるつもりでいたのに、最後は三匹を守って命を落としました。

きつねの心には、自分はいいきつねなんだという気持ちが生まれたのだと思います。

そして、きつねのその心を生んだのは、ひよこであり、あひるであり、うさぎの「神様みたいなおにいちゃん」という言葉です。はじめは親切ではなかったきつねに、こんな優しい心が生まれたのは、この三匹の魔法の言葉があったからです。言葉の大切さを強く感じます。